



【部分再生】

写真＝宮坂政邦  
Photo/Masakuni Miyasaka (WPP)

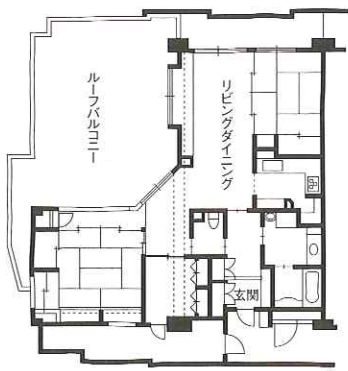
マンションの  
高層階に  
今までも  
暮らしを  
再生

◎ T 邸 (神奈川県横須賀市)

14 階建てマンションの  
13階。ベランダ越し  
に見える小高い山の

向こうは東京湾、西側の窓から  
は遙か遠くに富士山が見える。  
築70年の民家の一室をマンシ  
ョン内に移築・再生したとい  
う珍しい事例である。

神奈川県横須賀市のTさんは、  
おじいさんの代からこの土地に  
暮らしていた。家は昭和初期に  
建てられた、高い天井と暖炉を  
もつ大正ロマンの香りがする旧  
家であった。それが平成11年、  
この土地にマンションの建設計  
画が浮上し、家を壊す運びとな  
った。その際、由緒ある建物だ  
ったせいもあり、見学させてほ  
しいという人があった。それが、



●DATA

再生前の築年／築70年  
再生の工期／平成13年夏の45日間  
再生後の面積／一戸31坪  
(そのうち7坪分を再生)

再生の費用／約360万円  
設計・施工／NPO法人エコ住宅リサイクルバンク ☎045-621-1384  
東新総合 ☎045-623-5248



エコ住宅リサイクルバンクの二藤さん。「とてもいい家なので、このまま壊してしまうのはもったいない。とっておきましょう」という二藤さんの言葉に、Tさんの気持ちも動き、保存のための解体、再生に踏み切ったという経緯である。

マンション施工の工期が45日間と限られたため、特に思い入れのある一部屋に限定された。時間があれば、一軒まるごとの再生も可能だったと思う。再生された座敷は10畳から8畳へと変更されたものの、柱、雪見障子、書院は昔のままである。一畳の床の間は奥行きを半分にし、欄間は壁の高い部分から鴨居の真上に付け変えられた。廊下の床板や納戸の障子、リビングのガラス戸や古い調度品など、この座敷以外にも随所にかつての家の面影が散りばめられた。

Tさんは、「心が落ち着いて昔の家にいるみたいです。マンションの13階といえはさぞ空とのつきあいになるだろうと思っていました。山の緑がたたくさん目に入ってきて、あまり高いという感じはしないですよ。今は、この部屋を鑑賞する楽しみもできました」と喜んでる。



Tさんは昔から、この座敷に寝転ぶのが好きだったという。窓の景色は変わっても、畳の感触、部屋の落ち着きは変わらない。マンションへの古材再生は工事関係者にとっても初めての貴重な経験だったようだ。



古材は磨いたり塗り直したりせず、そのまま使用。檜の床板は新しいフローリング材と比べると、暖かくて柔らかいことが実感できる。息子さんが小さい頃、柱に書いた落書きも未だ健在。欄間や書院の装飾は、昔の職人技の結晶。障子の棧は一本一本面取りされており、細やかな手仕事は感嘆に値する。

古民家を「探す」から「暮らす」まで

古民家  
スタイル